

理学サロン 第6回

演者：熊澤 慶伯（教員）

話題：2022年のノーベル医学・生理学賞について

日時：2022年11月29日（火）18:00-19:00

場所：ラーニングコモンズ（4号館4階）

聴衆：総合生命理学部、理学研究科に関連する皆さん

要旨：2022年度のノーベル医学・生理学賞は、スバンテ・ペーボ（Svante Pääbo）博士に授与されました。ペーボ博士はスウェーデン人で、幼少時から考古学に興味を持っていました。分子生物学的な研究で博士号を取得しましたが、ミイラのDNAを調べる夢を諦めきれず、研究室で秘密の実験を繰り返していました。1985年、エジプトのミイラからDNAクローニングに成功し、Nature誌に単名で論文発表しました。この頃から古代DNA（ancient DNA）という新しい学問分野のパイオニアとして、彼の名は世界中に知れ渡っていました。

彼は、PCRや次世代シーケンスといった技術の進歩をいち早く研究に取り入れ、古代DNAの研究分野を常に牽引してきました。また、どの化石試料にDNAが保存されていそうかをアミノ酸のラセミ化度などから推定する手法を化学者と共同開発するなど、一見地味な周辺課題にも取り組んできました。こうした姿勢が実を結び、1997年にネアンデルタール人のmtDNAの一部を解読するという衝撃的な成果に繋がりました。その後は、ネアンデルタール人の全ゲノム解読、デニソワ人（未知のヒト属絶滅種）の発見、など圧巻の成果を次々に発表しました。

彼の研究成果は進化学の金字塔と言えるもので、Darwin-Wallace Medal (2019年)、Japan Prize (2020年)等を受賞したことは驚くにあたりません。しかし、ノーベル医学・生理学賞を受賞したのには驚きました。病気の治療や製薬に直接つながる成果でなくとも、今後そうした分野への応用も含め、広く大きな影響を与える業績を評価したノーベル賞選考委員会を称えたいと思います。

世話人：木村幸太郎 kokimura@nsc.nagoya-cu.ac.jp